

## 第2組インターシティ・ミーティング報告

IM実行委員長

**掛谷建郎** (茨木RC)

テーマ：震災を風化させない

北摂の12クラブで構成する第2組は3月8日、茨木市市民総合センターで、インターシティ・ミーティングを開催しました。「震災を風化させない」をテーマに、陸前高田市の戸羽太市長から「陸前高田市の被災状況と今、そして復興へ」と題する講演をいただきました。

戸羽市長は東日本大震災で甚大な損害を被った同市の状況や復興を遅らせている要因、目指しているまちづくりについて、具体例を示して話されました。陸前高田では市民の7%強にあたる1800人近い方が亡くなられたり行方不明になられたりしています。

復興の遅れについて、市長は法令の手続きの煩雑さや官庁の硬直的な対応、省庁間の縄張り争いなどが障碍になっていると指摘、「政府は被災地の立場に立ってほしい」と強調されました。陸前高田では瓦礫処理に2年を費やし、災害公営住宅など行政が関わる家はまだ一軒も建っていません。

今後については「ノーマライゼーションという言葉が必要のないまちにしたい」と語られました。「震災後、社会的弱者になった我々は多くの人に支えられた。今後

は高齢者や障がい者などが健常者と変わらずに住めるまちにしたい」とのことです。

市長は最後に「震災後3年たち、我々も自立する必要がある。今後は『支援』ではなく『応援』してほしい」と述べられるとともに、親をなくした子供たちが多くいることに触れ、「彼らが夢を追いかけられるよう応援してほしい」と締めくくられました。

IMでは12クラブの震災支援活動をパネル展示し、各クラブの交流の場としました。復興を応援するため、陸前高田の支援グッズを記念品として配りました。また陸前高田で大学生がボランティア活動をしている追手門学院(茨木市)の中学生による「大切なふるさと」(上田益作)の合唱など多くの方々のご協力を得ました。戸羽市長には翌朝の追悼式を控えた厳しい日程を縫って乗り越しいただきました。

講演に先立ち、福家宏ガバナーからは「今日のIMをひとつの節目として今一度復興支援のための奉仕活動を実現しなければならない」とのご挨拶をいただきました。今回のIMがその一助になればと願っております。

